

# 第46期 報告書

2021.4.1 ▶ 2022.3.31



石英ガラスが、世界を変える。テクノオーツが、その未来を支えている。

## CONTENTS

- ◆ 我社の永久スローガン
- ◆ 株主の皆様へ
- ◆ 当期連結業績の概要…当期の概要
  - …次期の業績見通し
  - …対処すべき課題
- ◆ 中期経営計画
- ◆ 連結財務諸表
- ◆ 参考情報
- ◆ 取扱製品のご案内
- ◆ トピックス…中国第三工場新設
  - …アプライド マテリアルズ2022年 サプライヤーエクセレンス賞受賞
  - …企業版ふるさと納税
  - …ESG/SDGsに対する当社の取り組み
- ◆ 会社の概況
- ◆ 株式情報
- ◆ 株主メモ

 **テクノオーツ株式会社**

証券コード 5217



# 我社の永久スローガン 「道は一つ、共に進もう」

## 創立の根本精神及経営理念

- 一、無（経済的）の人達の集合体による組織の確立
- 二、個々の社員の努力の集積による総合力の発揮
- 三、非同族会社の成立
- 四、役員を選出は株主（社員）の総意により決定する
- 五、会社を代表する取締役社長は役員の手合により選出する
- 六、経営担当者は私欲に負けない
- 七、利益（広義の）は、会社、株主、社員、社会に公正に分配する
- 八、原則として自己資本は社内で調達し、外部（社員以外）に求めない注)
- 九、系列化に属さず自主的に企業を運営する
- 十、組織の安定と成長

注) 本項は当社設立当初の記載であり、その後株式の店頭登録を機に再検討し、現在は当社を信頼し投資いただける人や企業からの出資については喜んで受け入れ、有効に活用させていただくという考えでございます。

## ジーエルサイエンスグループ企業行動指針

1. お客様からの信頼の獲得
2. 基本的人権の尊重
3. 倫理的行動の実践による法令および企業倫理の遵守
4. 公正・誠実な取引の実施
5. 反社会的勢力との決別
6. 環境問題への取り組み
7. 企業情報の開示



## 株主の皆様へ

To Our Shareholders

今般の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により亡くなられた方々及びご遺族の皆様にご丁寧にお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、医療関係の皆様をはじめ、感染拡大防止に日々ご尽力されている方々に深く感謝いたします。

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。ここに第46期（2021年4月1日~2022年3月31日）の営業の概況などにつきましてご報告申し上げます。

当連結会計年度におきましては、5GやAI、IoT、自動運転等の需要の高まりから、各メーカーの積極的な設備投資も継続しており、半導体市場は着実に拡大している状況です。

このような環境の中、当連結会計年度においては、売上高・利益ともに上場以来最高額を更新することができました。また、受注残高は過去最高レベルの水準で推移しました。

この結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高は15,820百万円（前期比23.7%増）、営業利益は3,164百万円（同29.4%増）、経常利益は3,231百万円（同36.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,200百万円（同37.0%増）と中期経営計画の初年度で最終年度の計画値をほぼ達成し、上場以来最高額を達成することができました。

上記業績の動向及び配当性向などを総合的に勘案し、期末配当につきましては、昨年の1株当たりの330円の普通配当から170円増配し、1株当たり500円とさせていただきます。

なお、2001年より実施してまいりました株主優待制度ですが、株主の皆様への公平な利益還元のあるあり方及び生鮮食品を取り扱う上での事故リスクの観点から慎重に議論を重ねました結果、配当による利益還元に集約することとし、2022年3月31日現在の当社株主名簿に記載された100株（1単元）以上保有する株主様を対象とした株主優待品の贈呈（6月下旬頃の発送）をもちまして、廃止とさせていただきます。

世界経済に目を向けると、世界的な食糧・エネルギー価格の高騰やロシア・ウクライナ情勢など先行きに不透明感が見られ、世界規模での経済の持ち直しにはまだ時間を要すると予想されます。

一方、当社グループが属する半導体業界におきましては、5GやAI、IoT、自動運転等の本格化等でデータ量の更なる増加も見込まれることから、中長期的な半導体需要のトレンドは引き続き拡大していくと思われまます。

当社は、中期経営計画（2021年度~2023年度）の達成に向けて、生産能力増強、営業力強化、業務効率化、経営基盤強化、人材育成を中心に引き続き取り組んでまいります。特に、2022年度は連結売上高200億円を見据えた基盤作りの年と捉え、生産能力の更なる増強を図るべく積極的に設備投資、体制強化を行い経営基盤強化と企業価値の増大を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



取締役社長

園田育伸

2022年6月

## ◆当期の概要

当連結会計年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、ワクチン接種率の向上や各種施策等の効果により、緩やかな持ち直しの動きが続きました。しかしながら、新たな変異株（オミクロン株）の感染が報告され、新規感染者数が増加傾向に転じることに加え、世界的な食糧・エネルギー価格の高騰やロシア・ウクライナ情勢など先行き不透明な状況が続く展開となっています。

当社グループが属する半導体業界におきましては、5GやAI、IoT、自動運転等の需要の高まりから、半導体の供給不足が顕在化する状況となりました。こうした需給逼迫は当分続くとの見通しから、各メーカーの積極的な設備投資も継続しており、半導体市場は着実に拡大している状況です。

このような環境の中、当社では、これまでに蓄えた豊富な受注残高と、工場の高稼働に伴う量産効果を背景に、当連結会計年度においては、売上高・利益ともに上場以来最高額を更新することができました。また、受注残高は過去最高レベルの水準で推移しました。

以上の結果、売上高は15,820百万円（前年同期比23.7%増）、営業利益は3,164百万円（同29.4%増）、経常利益は3,231百万円（同36.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,200百万円（同37.0%増）となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等の適用により、当連結会計年度の売上高は36百万円減少しております。

## 業績ハイライト（連結）

### ■ 売上高



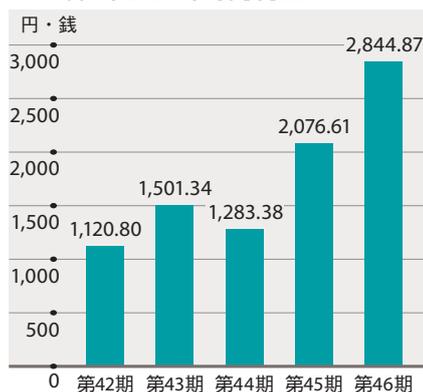
### ■ 経常利益



### ■ 親会社株主に帰属する当期純利益



### ■ 1株当たり当期純利益



### ■ 総資産



### ■ 自己資本





## ◆次期の業績見通し

2022年度のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の拡大や各国の経済政策により段階的な経済活動の回復が見られてきた中で、世界的な食糧・エネルギー価格の高騰やロシア・ウクライナ情勢など再び景気の先行き不透明な状況となり、経済活動の水準が元に戻るまでには相応の時間がかかると予想されることから、少なくとも年度内における景気の落ち込みは避けられないものと思われま

す。一方、半導体業界におきましては、「コロナショック」を契機に本格化した、世界的なリモートワークの広がりやデータセンター等メモリー需要の高まりなどプラス要因が強く、また、5G通信やIoT、AI/ディープラーニング、自動運転の本格化等でデータ量の更なる増加も見込まれることから、中長期的な半導体需要のトレンドは引き続き拡大していくものと予想されます。

今後は原油・原材料の高騰により製品や商品の値上げが見込まれ、それに伴うインフレ、景気の悪化、円安の顕在化、物流の不安などから収益環境は厳しくなっていきますが、当社グループの受注状況は、足元においても過去最高レベルの水準を維持しており、加えて上記理由から中長期的な受注拡大の見通しは変えておりません。

このような状況下、当社グループは、既存のお取引先との深耕を図るとともに新規のお取引先の需要の掘り起こしに努めてまいります。また、従来からの微細化投資に加え、今後の需要拡大を見越して国内及び第三工場が完成した中国子会社において、増産体制構築のための設備投資を順次進めてまいります。

以上のことから、2023年3月期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の通期連結業績予想につきましては、売上高17,000百万円（前連結会計年度比7.5%増）、営業利益3,220百万円（同1.8%増）、経常利益3,220百万円（同0.4%減）、親会社株主に帰属する当期純利益2,280百万円（同3.6%増）を見込んでおります。

### 2023年3月期の連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通 期 (2022/4~2023/3)	17,000百万円	3,220百万円	3,220百万円	2,280百万円	589円58銭

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

## ◆対処すべき課題

当社グループが今後とも取り組むべき中長期的な成長戦略と課題を以下に示します。

### (1) 生産能力増強

- 中国第三工場の稼働拡大や各工場の生産性向上等により、生産能力の更なる増強を図ります。
- 品質管理の高度化を進めるとともに、社外パートナー、外注先等との連携強化を通じて、生産能力の向上を目指します。

### (2) 営業力強化

- コロナ後のお取引先との関係強化を図るとともに、高付加価値製品の開発と拡張を行い、石英・シリコン製品の量産品のマーケット拡大を目指します。
- シリコン製品の開発品、量産品の更なる売り込みを強化するとともに、火加工製品等、高難易度製品の拡大を図ります。

### (3) 業務効率化

- 業務フロー、作業手順等の見直しを進め、業務自動化・効率化等のDXを推進します。
- テレワーク、会議システム等、効率化に資するシステムツールの更なる活用を図ります。

### (4) 経営基盤強化

- ESG経営、SDGsへの対応を進めるとともに、会社法改正への対応や新市場区分移行に伴うコーポレートガバナンス強化への対応を行います。
- 財務指標や株価を意識した経営を行い、IR機能強化、リスクマネジメント強化を図ります。

### (5) 人材育成

- 各種研修の充実、業務マニュアルの作成推進、人事ローテーションの活発化等により、優秀な人材の育成に努めます。



## 中期経営計画

## Medium-term Management Plan

当社グループは、経営ビジョンを実現するために中期経営計画を策定しております。

第47期は連結売上高200億円を見据えた基盤作りの年と捉え、経営基盤強化と企業価値の増大を図ってまいります。

### ◆経営目標（連結）

単位：百万円

項 目	第46期 2021/4~2022/3		第47期 2022/4~2023/3	第48期 2023/4~2024/3
	計画	実績	新計画	新計画
売上高	13,100	15,820	17,000	19,000
営業利益	2,460	3,164	3,220	3,590
営業利益率	18.8%	20.0%	18.9%	18.9%

※2021年5月27日に発表した中期経営計画の経営目標について修正しております。詳細は、当社ホームページで開示しております「中期経営計画の見直しに関するお知らせ」をご確認ください。

## 連結財務諸表

## Consolidated Financial Statements

### ◆連結貸借対照表

単位：百万円

項 目	第45期 2021年3月31日現在	第46期 2022年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	9,873	10,783
固定資産	5,400	7,526
資産合計	15,273	18,310
<b>負債の部</b>		
流動負債	3,012	3,660
固定負債	1,006	871
負債合計	4,019	4,531
<b>純資産の部</b>		
株主資本	10,981	12,926
純資産合計	11,254	13,779
負債純資産合計	15,273	18,310

### ◆連結損益計算書

単位：百万円

項 目	第45期 2020/4~2021/3	第46期 2021/4~2022/3
売上高	12,791	15,820
売上原価	9,007	11,093
売上総利益	3,783	4,726
販売費及び一般管理費	1,337	1,562
営業利益	2,446	3,164
経常利益	2,368	3,231
親会社株主に帰属する当期純利益	1,606	2,200

### ◆連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

項 目	第45期 2020/4~2021/3	第46期 2021/4~2022/3
営業活動による キャッシュ・フロー	1,765	2,316
投資活動による キャッシュ・フロー	△990	△2,365
財務活動による キャッシュ・フロー	△442	△520
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△54	90

## 参考情報

## Reference Information

### ◆連結経営指標

項 目	第45期 2020/4~2021/3	第46期 2021/4~2022/3
1株当たり当期純利益 (EPS)	2,076.61円	2,844.87円
1株当たり純資産	14,551.81円	17,815.82円
自己資本当期純利益率 (ROE)	15.3%	17.6%
配当性向	15.9%	17.6%



## 取扱製品のご案内

Product Information

### ◆半導体業界とテクノオーツの関わり

半導体業界は2020年以降、過去にない高成長を遂げています。PC・スマホ・自動車といった従来のモノ消費に加え、デジタルインフラの整備に伴うコト消費が急拡大し、私たちの社会生活の様々な場面で多くの半導体が使われています。テクノオーツの製品は、半導体を作る装置に組み込まれる重要な機能部品となっており、半導体製造において不可欠となっています。

テクノオーツでは、精密機械加工、火炎加工、精密洗浄、表面処理等を駆使することで高純度の石英ガラス及び結晶シリコン材料からなる各種装置部品を一貫生産しており、世界中のお客様へ納入させていただいております。また、自社シーズと大学技術を融合したオープンイノベーションにより新たな要素技術の開発にも取り組んでおります。



### ◆主要生産品

#### ■ 機械加工製品



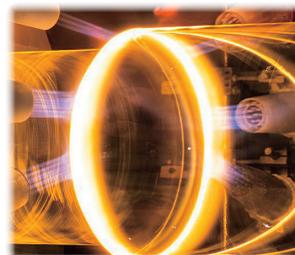
精密機械加工設備を駆使し、石英ガラスや結晶シリコン素材を様々な形状に加工していきます。主に半導体製造の前工程となるエッチング用の絶縁部材やマイクロ波透過窓等に使用されています。



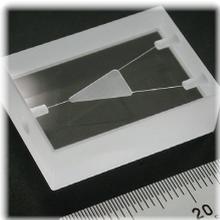
#### ■ 火炎加工製品



2000℃を超える高純度火炎のバーナー加工により、溶接や成形を繰り返し製品形状を作り上げます。主に半導体基板となるシリコンウェハを熱処理するための保持治具等に使用されています。



#### ■ 接合製品

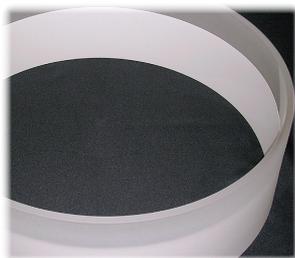
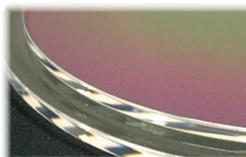


石英ガラス部材同士を加熱と加圧により原子レベルで一体化させる直接接合技術を応用した製品になります。精密な内部流路を形成することや異種材封入が可能となり、自社のコア技術になります。



### ◆その他 取扱品目

- 各種セラミック溶射・フッ素樹脂コーティング・耐プラズマコーティング
- 各種セラミックス精密平坦加工・エンボス加工
- 洗浄サービス
- 低反射表面処理





## ◆中国第三工場新設 (2021年11月竣工)

中国第一工場・第二工場の隣接地に、第三工場を新設しました。最大60台の機械設備設置が可能であり、最大約25億円/年の増産規模となります。



## ◆アプライド マテリアルズ2022年サプライヤーエクセレンス賞受賞

2022年4月11日 (現地時間) - テクノクオーツは、アプライド マテリアルズから2022年度サプライヤーエクセレンス賞を受賞しました。アプライド マテリアルズは、世界中のほぼすべての半導体チップや先進ディスプレイの製造に使用されるマテリアルズエンジニアリングのソリューションを提供するリーディングカンパニーです。

アプライド マテリアルズのサプライヤーエクセレンス賞は、品質、サービス、リードタイム短縮、納期遵守、コスト、即応性などの分野で、優れた技術的・実務的成果をあげたサプライヤーを表彰するものです。

本年、テクノクオーツはベスト イン クラス パフォーマンス賞を受賞しました。

アプライド マテリアルズのセミコンダクタ グローバルオペレーション並びにコーポレートクオリティ担当シニアバイスプレジデント、ジーノ・アディエゴ博士は、次のように述べています。「2022年サプライヤーエクセレンス賞を受賞された皆様の多大なご支援とご協力に感謝申し上げます。この1年間、受賞お取引先各社は技術と実務において最高水準のパフォーマンスを発揮されました。」

この度半導体業界における製造装置トップメーカーアプライド マテリアルズより、名誉ある賞を受賞しました。数多のサプライヤーを抱える当社において、ベスト イン クラス パフォーマンス賞を受賞できたのは、一重に株主様はじめ、業務を遂行した社員と皆様よりサポートをいただいた結果だと思えます。今後も顧客満足の目標の元、微力ながら半導体業界を通じ世の中に貢献できるよう邁進してまいります。

専務取締役 高橋 寛



## ◆企業版ふるさと納税

山形市に拠点を置く企業として、本市における「Q1プロジェクト推進事業(※)」及び「若者定着促進事業」を支援するため「企業版ふるさと納税」を通して寄付を行い、佐藤山形市長より感謝状をいただきました。



※ Q1プロジェクト推進事業について  
「Q1プロジェクト」とは、創造都市やまがたの拠点施設として、第一小学校旧校舎(昭和2年竣工、山形県下初の鉄筋コンクリート造 現山形まなび館)をリノベーションし、再活用する事業のことを言います。  
また、現在の「山形まなび館」は、旧(キウウ:Q)第一(イチ:1)小学校校舎を改装整備活用した建物であること、今後とも文化創造都市の推進に向けて「問い続けていく-Question」というコンセプト、思いを忘れずに活用してもらいたいという願いが込められており、これらを掛け合わせて「Q1(キウウイチ)プロジェクト」と名付けられています。

(山形新聞 2021年12月4日)



## ◆ ESG / SDGsに対する当社の取り組み

### ESG

テクノクォーツ株式会社は、より良い社会の形成と企業の持続可能な発展のため、ESGの3つの要素である、環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) に対する社会の期待や要請に「誠実」かつ「真面目」に取り組み、ステークホルダーとの対話を通じて深化させていきます。



**環境**：低炭素・循環型社会への転換に貢献すべく、国内・国外（中国）の当社工場において、極力環境に配慮した製造工法を模索するとともに、廃棄物の削減や分別に鋭意取り組んでおります。



**社会**：半導体事業を通じて世界中の人々に便利で豊かな暮らしを提供することで社会貢献するとともに、企業活動を通じて適正な配当・納税を行うことで、広く株主・社会に利益を還元し、上場企業としての社会的責任を果たしてまいります。



**企業統治**：取締役8名中3名を独立かつ社外取締役とすることで、経営の客観性を担保するとともに、会社法改正への対応や市場区分移行に伴うコーポレートガバナンス・コード強化に取り組んでまいります。

当社のESGに関してはホームページをご覧ください。 <https://www.techno-q.com/company/esg/>

### SDGs

当社の主な事業領域である“半導体事業”は、SDGsの目標を達成するために欠かせない要素技術です。長年の経験と確かな技術を元に、半導体製造装置に欠かせない画期的な製品を開発し、半導体製造装置メーカーへの販売、サポート活動を通じて、様々な環境問題や社会課題の解決に貢献していきます。

また、SDGsは社会全体で共有・連携して持続的な社会を実現するために設定された目的ですが、これは「社会性を十分に発揮しながら社員の幸福を勝ち取り、維持・発展を目指す」という当社の経営理念と、ESG経営の延長線上に位置づけられるものです。

当社は本業の半導体事業を中心に、ひとつでも多くのSDGsゴールの達成に寄与できるよう邁進します。



当社の取り組み内容についてはホームページをご覧ください。 <https://www.techno-q.com/company/sdgs/>

# 会社の概況 (2022年3月31日現在)

Company Profile

## ◆会社概要

商号 テクノクオーツ株式会社  
 証券コード 5217 (東証ジャスダック市場)  
 (注) 2022年4月4日付で東証スタンダード市場に移行しました。  
 設立 昭和51年10月2日  
 本社 〒164-0012  
 東京都中野区本町一丁目32番2号  
 資本金 829,350千円

## ◆役員 (2022年6月21日)

取締役社長	園田	育伸
専務取締役	高橋	寛
常務取締役	岸	慎二
取締役	増田	勇
取締役	手川	英一
常勤監査等委員	石川	和弥
監査等委員	谷口	茂樹
監査等委員	森田	岳人

## ◆主な事業

当社は、石英ガラスの加工技術を基に、半導体製造装置用の石英製品及びシリコン製品、並びに理化学機器の製造、販売を主力事業としております。

## ◆主要製品

- ①半導体製造装置用製品  
 反応管、キャリアポート、ベルジャー、石英リング、シリコン電極
- ②理化学機器用製品  
 石英ガラスセル、G・Lクロマトグラフィー用製品、テドラバック

# 株式情報

## ◆株式の状況

発行可能株式総数	3,120,000株
発行済株式の総数 (自己株式除く)	773,427株
株主数	1,180名
自己株式の取得、処分等及び保有 決算期における保有株式 普通株式	6,573株

## ◆主要な事業所

本社 東京都中野区本町一丁目32番2号  
 工場及び営業所等

名称	所在地	名称	所在地
蔵王工場	山形県山形市	東北営業所	山形県山形市
蔵王南工場	山形県山形市	北陸営業所	富山県富山市
東京営業所	東京都中野区	九州営業所	熊本県熊本市
関西営業所	京都府京田辺市		

## ◆従業員の状況

区分	従業員数 名	前年比増減 名	平均年齢 歳	平均勤続年数 年
男性	225	+14	37.7	12.4
女性	42	+5	40.0	11.1
合計又は平均	267	+19	38.1	12.2

(注) 従業員数には、役員(8名)、及び臨時従業員(13名)は含んでおりません。

## ◆重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の 議決権比率	主要な事業内容
杭州泰谷諾石英有限公司	千 US \$24,100	% 100	半導体製造装置用石英製品・シリコン製品の加工製造販売
GL TECHNO America, Inc.	千 US \$100	% 100	半導体製造装置用部品その他の製造販売及び輸出入業務

Stock Information

## ◆大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
ジーエルサイエンス株式会社	508,400	65.73
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	38,800	5.02
UBS AG LONDON ASIA EQUITIES	38,600	4.99
テクノクオーツ従業員持株会社	12,300	1.59
株式会社山形銀行	10,000	1.29
株式会社三菱UFJ銀行	8,000	1.03
株式会社山口銀行	4,000	0.52
丸山譲	3,900	0.50
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C NON TREATY	2,900	0.37
住友生命保険相互会社 (特別勘定)	2,600	0.34

(注) 持株比率は、自己株式(6,573株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会議決権行使 株主確定日	毎年3月31日
期末配当金支払 株主確定日	毎年3月31日（中間配当は行っておりません。）
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-7111（フリーダイヤル）
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="https://www.techno-q.com">https://www.techno-q.com</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### (ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。